

寺田屋事件

1866 年 3 月 9 日の夕方、伏見奉行の捕り方が寺田屋を囲み、襲撃を行った。反徳川の反逆者である坂本龍馬(1836-1867)が、過激派同志の三吉慎蔵(1831-1901)と寺田屋で寛いでいると聞きつけたのである。捕り方が到着したとき、女中として働いていた若い娘、榎崎龍(お龍としても知られる。1841-1906)は、階下の小さな木製の浴槽で入浴していた。危険に気付いた彼女は、風呂から飛び出し、襲撃を龍馬と慎蔵に知らせるために裸のまま二階に駆け上がった。

それは絶妙のタイミングだった。慎蔵は槍を上げ、龍馬はスミス&ウェッソンのピストルを発砲し、二人は薩摩藩の安全な屋敷へ逃げる事が出来た。龍馬は手に重傷を負ったが、お龍の機転の良さに大いに感謝し、生き残れる喜びを噛みしめた。龍馬とお龍は間もなく結婚し、薩摩（現在の鹿児島）の霧島温泉へ旅したのが、日本初の新婚旅行と言われている。

鳥羽・伏見の戦い（1868 年）で伏見の大部分が焼失した際、寺田屋も焼失した。しかし、現在は再建され、旅館と博物館として営業している。龍馬が泊まっていた 2 階の部屋やお龍が将来の夫に危険を知らせるために駆け上った階段や、その時お龍が入っていたお風呂も、心を込めて複製されている。